

松本市立博物館誕生記念 勉強会

松本学研究発表勉強会

松本市民が、日頃の「松本」に関する研究・調査や学びの成果を気軽に発表したり紹介したりできる場と、市民の誰もがそれを聴くことができる機会を、松本市立博物館が提供します。「わが町松本をもっと知りたい。松本学を深めたい。」そんな思いの学びあう人と人をつなげる試みです。皆さんも是非、気軽にご参加ください。

＊「松本学」とは、松本の豊かな自然環境や、多くの歴史的・文化的資産、多彩な産業、人々の営みから松本の地で生み出され培われたものなどすべてのものを対象（松本まるごと博物館）に、多面的かつ総合的に松本を知り、松本の町を未来に繋げる学びのことです。

開催要領

時期：10月12日（日）、19日（日）、26日（日）

時間：各回14:00～16:00

会場：市立博物館3階 常設展示室前ロビー

（企画展「松本市立博物館119年の歩み 誕生から今日まで」会場フロア）

参加者：どなたでも 参加料：無料

主催：松本市立博物館・市民ガイド

研究発表スケジュール

時間	10月12日（日）	10月19日（日）	10月26日（日）
14:00～	母倉 政次氏 「廃仏毀釈と開智学校」	杉田 千織氏 「蚕都まつもとの痕跡を さがす～暮らしにつながる お蚕さん～」	深澤 和歌子氏 「博物館で『峯谷樵橋軍記』を 読む」
14:30～	増田 徹夫氏 「江戸時代松本の風呂事情」	種 裕之氏 「塩と飴からみるあめ市」	鈴木 康雄氏 「日記で見る善光寺街道往来」
15:00 ～ 15:45	林 信孝氏 「狂歌の町 松本」	百瀬 将明氏 「松本の石造文化財を探す 楽しみ」	川手 修一氏 「犀川通船の背景となった 江戸時代の経済・流通」

研究発表テーマ要旨

母倉 政次氏 「廃仏毀釈と開智学校」

明治元年、明治政府が発令した「神仏分離令」をきっかけに全国各地で起こった「廃仏毀釈」が、ここ松本において住民の生活にどのような影響を与えたかを発表します。

増田 徹夫氏 「江戸時代松本の風呂事情」

江戸の風呂事情はよく取り上げられますが、松本の風呂事情はあまり知られておりません。松本城下町の武士や町民らはどうしていたのか調べました。

林 信孝氏 「狂歌の町 松本」

本町書籍店「慶林堂高見屋」に逗留し松本の文化人と交流した十返舎一九をはじめとして、狂歌を通じた江戸の文人との交流を紹介します。

杉田 千織氏 「蚕都まつもとの痕跡をさがす～暮らしにつながるお蚕さん～」

松本の産業であった「蚕種・養蚕・製糸」について、興味のある方が集まり、訪ねたり調べたりして松本の蚕糸文化をまとめてみました。

種 裕之氏 「塩と飴からみるあめ市」

あめ市の起源は義塩伝説とされていますが、なぜあめ市と呼ばれるのでしょうか。塩と飴、各々の作り方・歴史・習俗から、あめ市との関連を探ります。

百瀬 将明氏 「松本の石造文化財を探す楽しみ」

50年前に松本市社会教育課から発行された「松本の石造文化財」資料編があります(全17地区)。それを基に訪ねた石造物を解説します。

深澤 和歌子氏 「博物館で『峯谷樋橋軍記』を読む」

幕末、松本・諏訪の両藩が和田峠で水戸・天狗党と戦った古文書資料から、軍勢がやってきて慌てふためく村人の姿など、リアルな描写を紹介します。

鈴木 康雄氏 「日記で見る善光寺街道往来」

善光寺街道は善光寺参り・伊勢参りの旅人や物資運搬などで利用されました。その中でも松尾芭蕉などの文芸作家は日記を遺しておりその行程を知ることができ、その概要を解説します。

川手 修一氏 「犀川通船の背景となった江戸時代の経済・流通」

犀川通船は開通まで約100年かかりました。その執念の背景には経済成長がありました。商品流通が活発化した江戸中期から後期の経済動向を概観します。